

国語科学習指導案

指導者 櫻田 仁美

- 1 日 時 平成24年11月19日（月）
- 2 学 年 第2学年1組 21名 [2年1組教室]
- 3 単 元 名 「どうぶつのひみつ」クイズを作って出し合おう
(学習材：「ビーバーの大工事」 東京書籍2年上)

4 単元設定の理由

- 本単元は、小学校学習指導要領第1学年及び第2学年の「C読むこと」の内容に基づき設定した。

- | |
|---|
| (1) イ 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。
エ 文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。 |
|---|

本単元では、「どうぶつのひみつ」クイズを作って出し合う活動を通して、本や資料から知りたいことを見つける力を身に付けさせることをねらう。

本教材「ビーバーの大工事」は、①木を切って川へ運ぶビーバーの様子、②ダム作りをするビーバーの様子、③湖の中に巣を作るビーバーの知恵、の三つの意味段落で構成される。ビーバーの巣作りの様子が順を追って説明されているため、順序に沿って内容をとらえる読み方を身に付けさせる上で適した教材である。

教材で取り上げられているビーバーは、児童にとって知る機会の少ない動物であるため、ビーバーの能力や巣作りの知恵などを知ることで、児童の興味と関心が喚起され、意欲的に学習することができる。この時期の児童にとって、動物を題材とした教材は興味深い。また、「ここは、北アメリカ。…」と物語のように始まる書き出しに、たちまち読みの世界へと誘われる。

本文の中では、「ガリガリ」「ドシーン」といった擬音語、「五十センチメートル」などの具体的な数量、「たちまち」「ぐいぐい」といった副詞を中心とした修飾語の活用、「オールのような」といった比喩表現などが効果的に用いられている。こうした言葉の表現に着目させながら読むことで、様々な言葉の表現について知ることができる。また、こうした表現に加え、本教材では写真や挿絵が用いられているため、ビーバーの巣作りの様子についてイメージを喚起しながら読むことができる。

本単元では、大事な言葉や文章を書き抜き、順序に気をつけて正しく読み取るとともに、身につけた大事な言葉を探しながら読む力を生かして、クイズの問題を作ったり、答えを本から探したりする活動につなげる。

- 本学級の児童は、5月の説明文教材「たんぼぼ」の学習において、順序に気をつけて読み取る学習をした。はじめ、中、終わりの構成をおさえたり、段落毎に何について書かれているかを把握したりしながら読み進めた。その際、繰り返し出てくる言葉に印を付けたり、花が開いたり閉じたりする様子や、くきが起き上がったたりたおれたりする様子を動作化させたりして、順序を意識させるようにした。児童は、それぞれの段落に「ねのこと」「花のこと」など何が書いてあるかを把握することができていた。また、動作化することで、花の開閉やくきの様子などを楽しみながら順序立

てて表現することもできた。

しかし、本文全体を通して、たんぼぼの仕組みがどんな順序で説明されているかを把握することと、本文中から大事な言葉だけを抜き出して書くことは十分とはいえない。

○ 指導にあたっては、次の4点において工夫する。

第一に、「どうぶつのひみつ」クイズを作って出し合うという学習のゴールを設定する。始めに全員で、教材文から「ビーバーの巣作りのひみつ」クイズを作ることで、クイズ作りの練習をさせる。その際、クイズを作って解きながら、教材文を読み取ることができるようにする。ビーバーの巣作りについて学習した後に、自分たちの興味のある動物の巣作りについて調べ、クイズ作りをさせる。クイズ作りをする過程において、様々な本を読むことを通して多くの情報を得、知的好奇心が満たされる喜びを感じるとともに、児童が意欲的かつ主体的に取り組むことができると考える。

第二に、ビーバーの巣作りのイメージをもたせるために、写真や絵、映像などを効果的に用いる。教科書にある写真や挿絵と本文とを対応させながら読み取るとともに、実際のビーバーの巣作りをしている様子の映像を見せることで、木をかじって倒すビーバーのすごさや家族総出の大工事の様子について、実感をもって理解させる。

第三に、教材文「ビーバーの大工事」の学習を進めていく際に、「ガリガリ」「ドシーン」といった擬音語、「五十センチメートル」などの具体的数量、「たちまち」「ぐいぐい」といった副詞を中心とした修飾語の活用、「オールのような」といった比喻表現などに着目させながら読んでいく。そうすることで、様々な言葉の表現について知ることができるとともに、ビーバーの巣作りの様子についてイメージを喚起しながら読むことができる。

第四に、クイズ作りのための資料として、教室に動物に関する本を豊富においておく。低学年の児童においては、まだ自分で本を探すことが困難なことも考えられるため、様々な動物の本に触れられる環境を作る。そうすることで、児童が「自分でもこんなことを調べてみたい」という思いをもち、自分自身で行う調べ学習へのきっかけをつかむことができると考える。

5 研究主題との関わり

(1) 扱う言語活動例

事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読むこと。 (読むこと言語活動例ウ)

(2) 言語活動を充実させるための指導方法の工夫

動物に関する本を集めて教室においておき、児童が様々な動物の本に親しめるようにする。また、本や資料から知りたいことを見つけることができるようにするために、「どうぶつのひみつクイズ」を作って出し合う学習を取り入れ、どこに何が書いてあるかをとらえながら読めるようにする。

6 単元の目標

- 動物の生態に興味を持ち，進んで本を読んで調べようとしている。

【国語への関心・意欲・態度】

- 順序に気をつけ，ビーバーの大工事の様子を読み取ることができる。 【読むこと イ】

- ◎ 大事な言葉を探しながら，どこに何がどんな順序で書いてあるかを読み取ることができる。

【読むこと エ】

7 単元の評価規準

	国語への関心・意欲・態度	読むこと
単元の評価規準	○動物の生態に興味を持ち，進んで本を読んで調べようとしている。	○順序に気をつけ，ビーバーの大工事の様子を読み取っている。 ◎だいたいな言葉を探しながら，どこに何が書いてあるかを読み取っている。
学習活動における	○動物の生態について書かれた文章に興味を持ち，進んで学習に取り組もうとしている。 ○「クイズしゅう」作りに意欲的に取り組もうとしている。	○叙述に沿って，ビーバーが木をかじって倒す様子，切り倒した木を運んで泳いでいく様子，ダムを作る様子，巣作りの様子や巣の仕組み，安全な巣を作って暮らすビーバーの知恵を読み取っている。 ◎調べた動物について，巣作りのひみつを読み取っている。

8 指導計画（全12時間）

次	学 習 活 動	評価			
		関	読	評価規準	
一	全文を通読し，内容の大体をつかむ。 「どうぶつのひみつ」クイズを作って出し合うことを知らせ，見通しをもたせる。（1）	○		○ 動物の生態について書かれた文章に興味を持ち，進んで学習に取り組もうとしている。	行動観察 ノート
二	ビーバーが木をかじって倒す様子を読み取る。（1）		○	○ 叙述に沿って，ビーバーが木をかじって倒す様子を読み取っている。	行動観察 ワークシート
	切り倒した木を運んで泳いでいくビーバーの様子を読み取る。（1）		○	○ 叙述に沿って，ビーバーが切り倒した木を運んで泳いでいく様子を読み取っている。	行動観察 ワークシート

	ビーバーがダムをつくる様子を読み取る。(1)		○	○ 叙述に沿って、ビーバーがダムを作る様子を読み取っている。	行動観察 ワークシート
	安全な巣を作って暮らすビーバーの知恵を読み取る。(1, 本時)		○	○ 叙述をもとに巣作りの様子や巣の仕組みを読み取り, 安全な巣を作って暮らすビーバーの知恵を読み取っている。	行動観察 ワークシート
三	動物について調べ, 「どうぶつのひみつ」クイズ作りをする。(4)	○	◎	◎ 調べた動物について, 巣作りのひみつを読み取っている。 ○ 動物の生態について書かれた文章に興味を持ち, 進んで学習に取り組もうとしている。	行動観察 ワークシート
	「どうぶつのひみつ」クイズ大会を開き, できたクイズをまとめてクイズ集を作る。(3)	○		○ 「クイズしゅう」作りに意欲的に取り組もうとしている。	行動観察 ワークシート

9 本時の展開

(1) 本時の目標

安全な巣を作って暮らすビーバーの知恵を読み取ることができる。

(2) 観点別評価規準

- 叙述をもとに巣作りの様子や巣の仕組みを読み取り, 安全な巣を作って暮らすビーバーの知恵を読み取っている。 [読むこと]

(3) 本時のポイント

ビーバーの巣作りの様子や巣の仕組みについて, 写真や挿絵と本文とで対応させることで, 視覚的にイメージできるようにする。また, 「ビーバーのひみつ」クイズを作って解くことで, 叙述をもとに巣作りの様子や巣の仕組みを読み取り, 安全な巣を作って暮らすビーバーの知恵を読み取ることができるようにする。

(4) 準備物

ワークシート, 本文掲示, 短冊, ビーバーの巣の写真や挿絵

(5) 学習の展開

学習活動	指導上の留意事項	評価規準（評価方法）
<p>1 本時の学習場面を音読し、本時のめあてを確認する。</p>	<p>○これまで学習してきた内容として、①ビーバーの木を切り倒す様子、②木を運んでいく様子、③ダムを作る様子、についての順序を確認する。</p> <p>○16段落から20段落までを音読する。</p> <p>○本時の学習場面では、主に「巣作り」について書かれていることを押さえる。</p> <p>○前時までの学習を想起しやすくするために、学習の足跡となる教材本文を掲示しておく。</p>	
<p>ビーバーのす作りのひみつをさぐろう。</p>		
<p>2 作ったクイズを解きながら、安全な巣を作って暮らすビーバーの知恵について話し合う。</p>	<p>○前時までに児童が作ったクイズを順序に気を付けながら板書する。</p> <p>○教材本文は、学ばせたい言葉（比喩的表現「まるで～のようです」や接続語「けっして～できません」、理由を述べる言い方「～のは、～のため」など）やキーワードとなる言葉（ダム、す、巣作りの材料など）をあらかじめ強調し、確認できるようにする。</p> <p>○主要発問（①ビーバーがダムを作る理由、②巣が安全な理由）を児童の作ったクイズの中から取り上げるようにする。それができない場合は、指導者側から「スペシャルクイズ」として出題する。そして、答えになる部分を全員が考えられるようにする。</p> <p>○クイズの答えとともに、答えに対して自分が思ったことや考えたことなども交流する。その際、安全な巣を作って暮らすビーバーの知恵について気付かせる。</p> <p>○教科書P.29やP.37の巣の写真や挿絵を活用したり、ダムと巣の位置関係を表す図を描いたりしながら、巣の構造や</p>	<p>○叙述をもとに巣作りの様子や巣の仕組みを読み取り、安全な巣を作って暮らすビーバーの知恵を読み取っている。（ワークシート）</p>

	場所をイメージできるようにする。	
	<p>○ビーバーの巣の自慢（特徴）とは何かを問い、「てきにおそわれない安全な巣」であるところ、具体的には、①湖の真ん中に作る場所、②入り口を水の中にしたところ、などを押さえる。</p> <p>○「あんぜん」とはどういうことをいうのか、言葉の意味を具体的に自分で説明できるようにする。</p>	
3 学習のまとめをする。	<p>○本時の授業について、「他者視点」「自己モニター」の視点で振り返り、付箋紙（ブルー、ピンク）に記入させる。</p> <p>○次の時間からは、自分の興味のある動物について調べ、「どうぶつのひみつ」クイズを作っていくことを確認する。</p>	